

さらなる価値創造に向けて
ビックカメラグループ中期経営計画 | **Vision 2029**

サステナビリティ

持続的成長を支える基盤としてのサステナビリティ

私たちは、サステナビリティを特別な活動としてではなく、日々の事業運営に組み込むことを大切にしています。店舗運営や商品・サービス、人財育成などの実務においても、環境・社会の視点を踏まえた取り組みを広げています。今後も、環境変化や社会からの要請を的確に捉え、事業活動を通じて企業価値の向上を実現していきます。



経営企画部
サステナビリティ推進室長
鈴木 孝弘

▶ サステナビリティ方針

“人”を大切に、“人”を成長の原動力として、社会と共に発展します

ビックカメラグループは、「お客様喜ばせ業」をつなぎ、期待を超える」というパーパスのもとに、人財を最大の強みとし、その力を事業活動に活かすことで、企業価値を向上させ、社会課題の解決を実現します。

全てのステークホルダーの皆様に喜んでいただくために、

経済を循環させる購買促進、環境に配慮した商品・サービスの提供、そしてより豊かな生活を提案することにこだわり、事業の推進そのものが社会貢献へとつながる、当社グループならではの価値創出に挑み続けます。

▶ 価値創造プロセスとサステナビリティの位置づけ

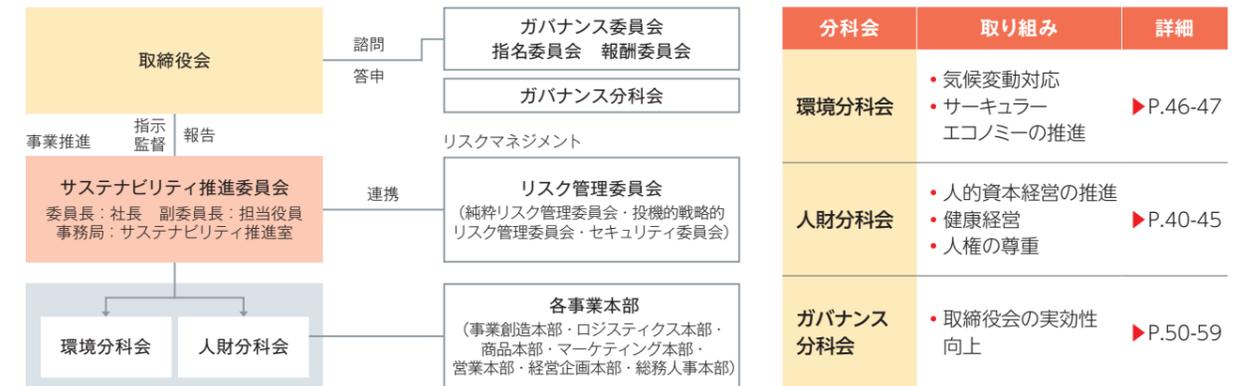
当社は、店舗・人・サービスを起点に、商品や体験を通じてお客様の期待を超える価値を提供し、その積み重ねによって事業成果や信頼を創出しています。こうした価値創造プロセス全体を支え、貫く前提として位置づけているのがサステナビリティです。人財、環境、社会、ガバナンスの各分野における取り組みを、事業活動の外側に置くのではなく、日々の経営に組み込むことで、企業価値の向上を目指しています。



▶ サステナビリティ経営推進体制

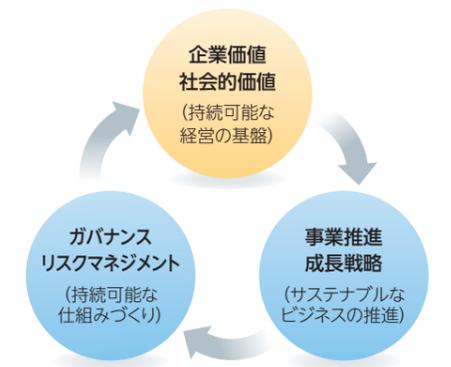
当社は、社会課題の解決に貢献し、社会と当社グループの持続的な発展を実現するため、事業活動を通じたサステナビリティ経営を推進しています。その中核として、代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ推進委員会を設置し、毎月開催しています。本委員会は、代表取締役社長、サステナビリティ担当役員、執行役員全員及び常勤監査等委員で構成され、取締役会の実効的な監督のもと、サステナビリティ経営に関する重要事項の審議を行い、その内容を取締役会へ報告しています。

また、サステナビリティ推進委員会のもと、各本部と連携しながら具体的な施策を推進しています。重点領域は、環境（気候変動への対応）、社会（人的資本経営、健康経営、人権の尊重）、ガバナンス（取締役会の実効性向上）であり、各領域に分科会を設置しています。分科会では、戦略の立案、施策の検討、KPIの策定及び進捗管理を行い、全社横断でサステナビリティの実効性を高める体制を構築しています。



▶ サステナビリティ推進委員会での主な議論

2025年8月期のサステナビリティ推進委員会は計11回開催しました。委員会では、ストレスチェックやウェルネスサーベイの結果を踏まえ、従業員の健康経営とエンゲージメント向上に向けた施策を検討しました。また、女性活躍推進や育休取得率改善などダイバーシティ強化の取り組みを確認。さらに、ESG評価機関への対応や情報開示方針、気候変動対策、人財戦略、ガバナンス強化など、持続可能な成長に向けた重要課題について議論し、今後の方向性を総括しました。



▶ 国連グローバル・コンパクト

当社は、国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト（UN Global Compact、以下UNGCC）」に署名し、2025年4月15日に参加企業として登録されました。併せて、UNGCCに署名する日本企業などで構成される「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」に加入しました。

当社は、「お客様喜ばせ業」をつなぎ、期待を超える」というパーパスのもと、全てのステークホルダーの皆様に喜ばれる価値の創出を目指しています。UNGCCへの参加を契機に、人権・労働・環境・腐敗防止の4分野10原則を尊重し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

